

## 注目される細幅箱桁橋

公共事業費の削減を目指して開発された細幅箱桁橋は、従来構造の箱桁に比べて、建設コストや維持管理費の低減、景観性の向上等の特徴を有し、耐久性、安全性および工期短縮に大きな効果があることから、今後更なる採用が増えることが期待されています。

### 概要

#### ①主桁構造の合理化

腹板間隔を狭くすることで、縦リブ本数の低減、横リブの省略を行うことで、材片数を大幅に減少させた構造です。(図-1にイメージ図を示す)

#### ②床組構造の省略

剛性の高い高耐久性床版である鋼・コンクリート合成床版やPC床版を採用することで、床組(縦桁、ブラケット)を省略した構造です。

### 【特長】

#### ①建設コストの低減

構造の簡素化によって、従来箱桁と比較して10%程度の建設コストの低減が可能となります。

#### ②維持管理コストの低減

部材数、材片数の大幅な削減によって塗装面積が減少し、さらに高耐久性床版を採用することで、維持管理コストが低減します。

#### ③長支間に対応可能

100mを超える長支間に対応出来ます。

#### ④景観性の向上

床組構造がないため、すっきりした外観で景観性が向上します。

#### ⑤安全性の向上

合成床版を採用することで、桁下作業が省略できます。また、底鋼板を架設時の補強材として利用することによって、架設時の安全性が向上します。



